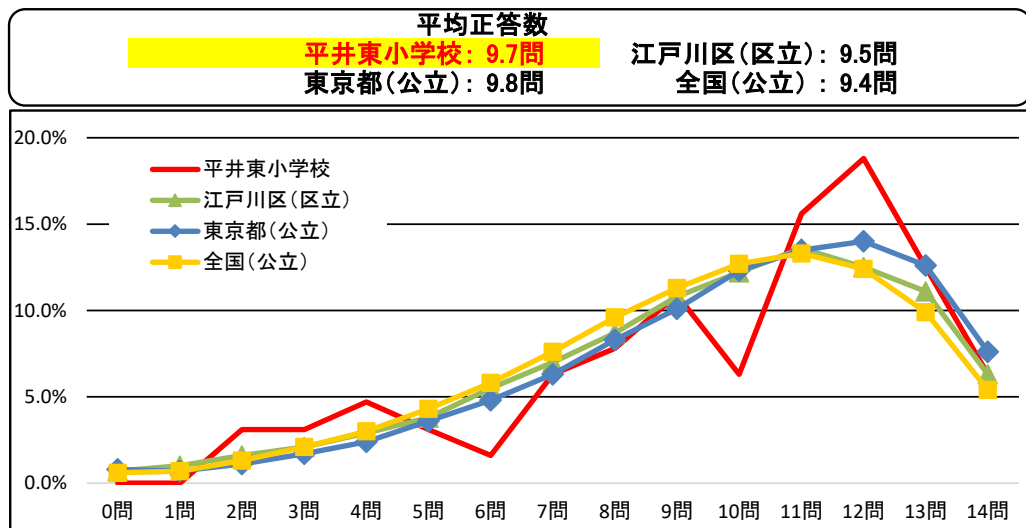


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 平井東小学校

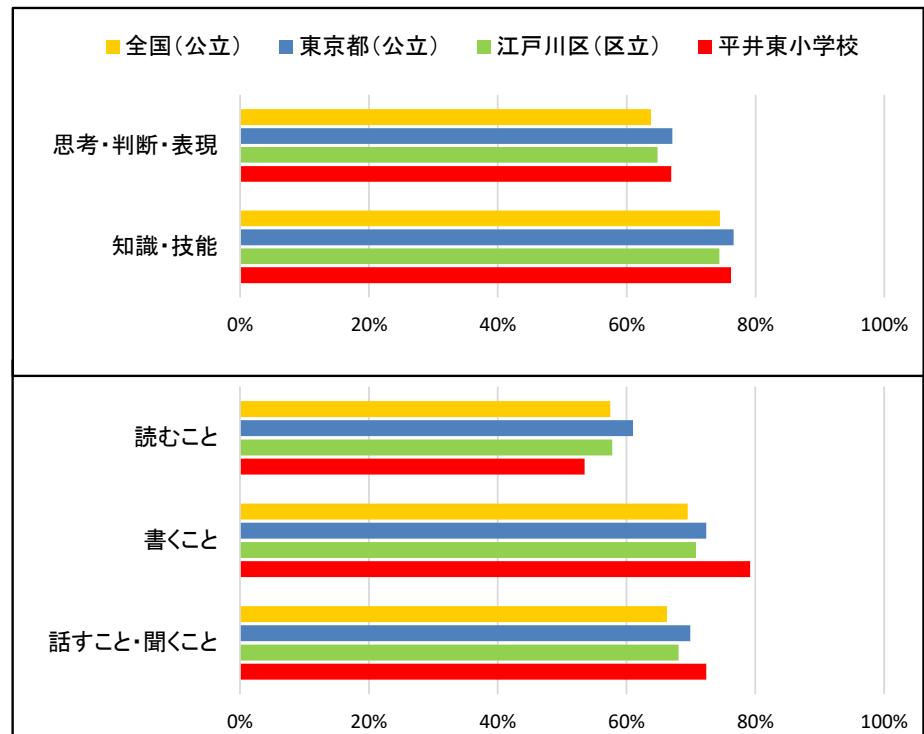
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

平井東小学校	70%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	0.0

「領域別」の結果

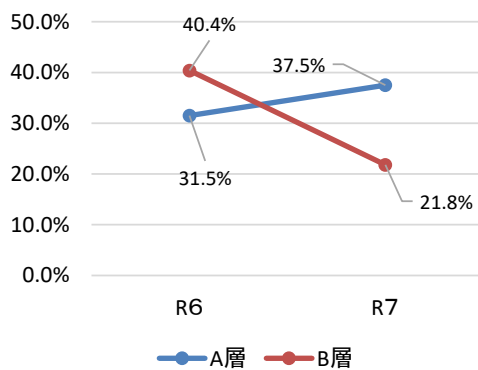


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

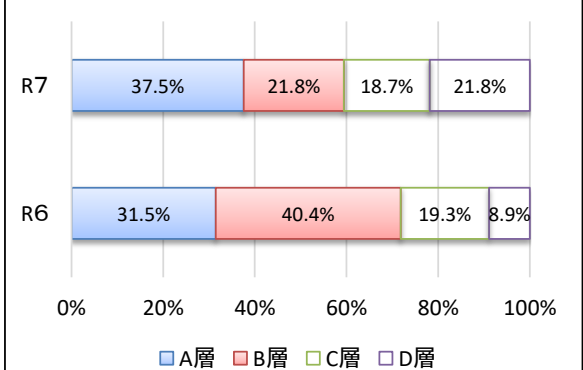
国 語	上位 ← → 下位			
	A 層 12～14問	B 層 10～11問	C 層 8～9問	D 層 0～7問
平井東小学校	37.5%	21.8%	18.7%	21.8%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

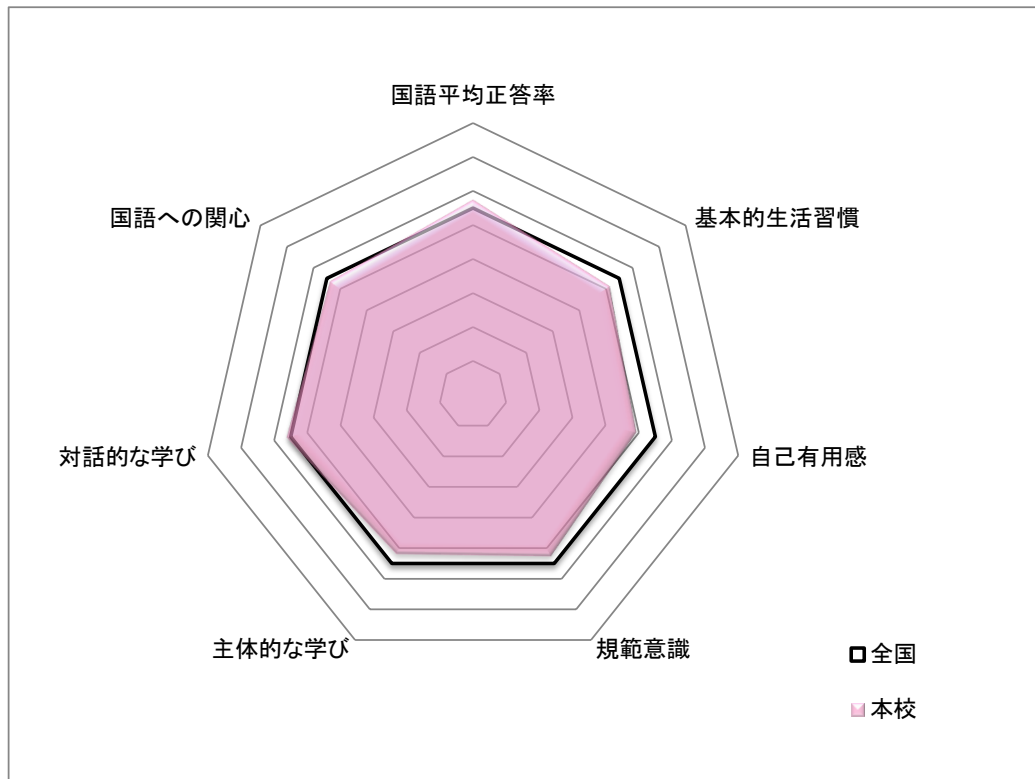
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- ・A層の割合は、全国の数値を上回っているが、B層は数値を下回っている。
- ・昨年度の結果と比較すると、A層は高くなっているが、B層は下がっている。D層の割合が増えている。
- ・「読むこと」の領域に課題が見られる。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- ・校内研究やOJTを通して、授業を見合い、国語科を軸として研究主題である「主体的な学びを生み出す授業づくり」を目指していく。
- ・「学びを自分ごとにする力の育成」を目指し、単元の開始時には児童が取り組みたくなるような課題を考えていく。
- ・国語授業スタンダードに基づいた授業を行っていく。

・基礎学力の保障

- ・ミライシードのAI機能を使ったドリルパークに取り組み、一人ひとりにあった演習問題に取り組む。
- ・週に1回、朝学習の時間によむYOMUワークシートに取り組み、記事の概要や要点、筆者の意図をつかみながら読む力を養う。
- ・あさがお読書月間などや、読書貯金の活動を通して、読書に親しみ、本のあらすじをまとめる力を養う。

・学習習慣の確立

- ・一定量の課題を出し、家庭での学習習慣を身に付けさせる。また江戸川っ子study weekを活用し、積極的にドリルパークに取り組めるよう促していく。
- ・各学年に音読の宿題を課し、文章構造・語彙・リズムなどの定着を図る。

・AB層の育成

- ・授業の中で、自分の考えやその根拠となる文章を抜き出し、説明する機会を多く設ける。
- ・「なぜそう考えたのか」「どこに書いてあることなのか」といったより高次元な発問を意識し、論理的思考、多面的考察を磨く。
- ・今後も対話活動を多く取り入れ、読んだ内容について根拠をもとに話し合う場を設ける。

《チャートの特徴》

- ・全体的にきれいな七角形になっているが、全国平均を下回る項目がいくつかある。
- ・自己有用感の項目で全国平均を下回っている。
- ・対話的な学び、国語平均正答率は、全国平均を上回っている。
- ・国語への関心は、全国平均をやや下回っているが、ほぼ同じである。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・「基本的な生活習慣」を身に付けられるよう引き続き協力をお願いします。
- ・主体的・対話的に学んでいる普段の様子を家庭的にも積極的に発信していき、子供たちの自身につなげる。